

## 令和元年度掛川市 Pepper「スクールチャレンジ」コンテスト要項

### 1 目的

- (1) Pepper を活用したプログラミング教育を推進し、その成果を披露する。
- (2) 本コンテストをプログラミング授業のゴールとして設定し、学習意欲の向上を図る。

### 2 対象者

掛川市内の Pepper を導入した小・中学校の小学校 4 年生から中学校 3 年生までを対象とする。

### 3 部門・参加数

- (1) 小学校部門 各校 1 つ以上 3 つ以内。
- (2) 中学校部門 各校 1 つ以上 2 つ以内。
- (3) フリー部門 参加希望がある小、中学校において各校 1 つ以内。  
※micro bit の利用も可。  
※混成チームで参加する場合は、チームで 1 つ以内。  
混成チームについては、下記 11 参照。
- (4) 事例発表「先生チャレンジ」 任意参加。各校 1 つ以内。
- (5) 事例発表「特別支援教育チャレンジ」 任意参加。各校 1 つ以内。

### 4 テーマ

- (1) 小学校部門  
身の回りで役立つ Pepper
- (2) 中学校部門  
社会の課題を解決する Pepper
- (3) フリー部門  
フリー ※実際に作ったプログラムを活用し、その効果を企画説明書に含めること。
- (4) 事例発表「先生チャレンジ」  
Pepper の特性を活かし、実際に授業の中で活用した事例
- (5) 事例発表「特別支援教育チャレンジ」  
Pepper を活用し、子どもが変化・成長した特別支援の事例

## 5 応募方法

### (1) 提出物

<小学校部門、中学校部門、フリー部門>

ア プログラミングしたコレグラフまたは Robo Blocks

イ 企画説明書・対応表（企画内容、プログラミング内容等の解説）

ウ 動画（Pepper がどのように動くかわかるもの【5分以内】上記イの「対応表」に記述したものを撮影してください。）

※今年度、企画内容やプログラミング内容の解説については、文書での提出とします。

・動画は、原則 Pepper 用 Surface Pro で撮影する。ただし、異なる機材で撮影する場合は、必ず通常のパソコン環境で見ることが可能な形式にすること。

（MP 4、AVI、WMV、MOV等）

エ 参加者名簿（別添 Excel ファイル）

<事例発表「先生チャレンジ」、「特別支援教育チャレンジ」>

	「先生チャレンジ」	「特別支援教育チャレンジ」
ア	学習指導案等、授業のねらいや構成がわかる資料	Pepper の活用方法と子どもの変化・成長がわかる資料
イ	授業風景の写真 (保護者承諾済みで著作権上 HP 掲載可能なもの)	活用場面の写真 (保護者承諾済みで著作権上 HP 掲載可能なもの)

### (2) 提出方法

ア 小学校部門、中学校部門、フリー部門

USBメモリで、掛川市教育委員会学校教育課へ、文書便による。

イ 事例発表「先生チャレンジ」「特別支援教育チャレンジ」

学校教育課宛て、電子メールによる。

### (3) 提出締切

令和元年 10 月 30 日（水）

## 6 審査開催日時・場所（予定）

### (1) 日時

令和元年 11 月 5 日（火） 午後 1 時 30 分から 4 時 30 分まで

(2) 場所

掛川市教育委員会

7 審査員

静岡大学 紅林教授、教育長、掛川市プログラミング教育推進委員長、掛川市情報教育研究委員長、市教委学校教育課長

8 審査方法

(1) 小学校部門、中学校部門、フリー部門

企画説明書、VTR（動画）による審査

【評価基準】 1分野5点満点で審査

項目	評価分野	評価基準	得点3のレベル	得点5のレベル
1 2 3 企画	企画背景の着想・視点	発表者ならではの視点や着想に基づいているか	テーマに沿っており、着想、視点がよい	テーマに沿ってPepperの利活用が考えられており、着想、視点が大変よい
	企画内容の新規性・独創性	これまでにないコンセプト、アイデアとなっているか	類似の企画内容がなく、新規性、独創性がある	新しい価値や使い方が付加された企画内容であり、独創性、優位性がある
	課題解決のアプローチ方法	設定した課題をどのように解決するか	一般的なアプローチ方法で設定した課題を解決した	Pepperならではのアプローチ方法で、明確に設定した課題を解決した
4 5 6 7 プログラミング	インタラクティブ性	会話にインタラクティブ性があるプログラムになっている	センサを使って会話を行うプログラム	分岐やセンサを使って会話を行うプログラム
	会話・動作の自然さ	会話・動作が自然であるか	一部不自然な会話、動作がある	100%会話・動作が自然である
	論理性・効率性	プログラムが論理的・効率的に構成されているか	誤り無く構成できている	矛盾、齟齬無く非常に効率的にプログラミングできている
	ボックス・ブロックの使用法	正しいボックス・ブロックの使用法か	一部改善余地があるプログラミング	誤りのないプログラミング

(2) 事例発表「先生チャレンジ」「特別支援教育チャレンジ」

提出された書類による審査

9 審査結果の発表（予定）

令和元年 11月8日（金） 市役所ホームページにて結果を発表。

※優勝チームには、11月7日（木）に連絡する。

10 全国大会への出場について

掛川市コンテスト優勝チームについては、プレゼンテーション用の発表資料を作成し、改めて発表動画を撮影する。11月25日（月）までにソフトバンク最終予選（書類・データ審査）にエントリーするための応募書類を、掛川市教育委員会 学校教育課へ提出する。（ソフトバンク締切は11月末日）

なお、最終予選において各部門上位10校に選ばれると、令和2年2月9日（日）ソフトバンク本社で行われる全国大会に出場する。

11 混成チームについて

フリー部門に限り、学校をまたぐ混成チームでのエントリーが可能である。混成チームでエントリーをする場合、学校教育課担当宛てに連絡をする。